



南山城三十三所
観音霊場

歴史探訪



お茶の京都

Discover
Premium
Green



南山城

三十三所

巡礼のはじまり

奈良時代、徳道上人によってはじめられた「西国三十三所観音霊場」が日本における巡礼の始まりと言われています。室町時代以降、西国三十三所にならった写し霊場が全国各地に設けられ、民間でも札所巡りが行われるようになりました。「三十三」とは観世音菩薩が衆生を救うとき、「三十三」の姿に変化する信仰に由来し、その功德にあずかるために三十三の霊場を巡拝するといわれており、南山城でも江戸時代に三十三所観音霊場が定められました。

平成三十年（二〇一八）に日本遺産にもなった西国三十三所霊場が草創して一三〇〇年の記念の年を迎えました。

南山城三十三所の中には、廃寺になったもの、移転・移築されたものもありますが、現存するお寺をご紹介します。

観音霊場

南山城三十三所観音霊場は江戸時代の貞享年間(1684～1688)の頃に相楽郡綺田村(現木津川市山城町)の東光寺に住む如範という僧が西国三十三所観音霊場になって南山城の三十三ヶ寺を選び、御詠歌をつくって人々に広めました。当時多くの方が参詣しましたが、次第に廃れていき、天保6年(1835)に井手郷玉水の橘講中が村々に寄進を願い復興のために『巡礼記』を再刊したといます。時代は明治に移り、神仏分離からの廃仏毀釈と寺院の統廃合により、約半数の寺院が廃寺となります。しかしそれらの観音本尊も最寄りの別寺に移り、巡拝の方を見守っておられます。

今回ガイドブック制作にあたりまして、継承寺院にもご協力いただき、20のお寺様を掲載しています。

みなさんも南山城の巡礼の旅、その足跡をたどってみませんか。

巡礼のマナー

- お寺は礼拝の場であり、仏像は信仰の対象です。参拝の心を大切にしましょう。
- 巡礼は番号にとらわれず自由に巡ることができます。
- 当ガイドブックで紹介する文化財の中には、拝観にあたって予約が必要なお寺や、通常は公開されていない仏像などもあります。特別公開される場合もありますので、公開の有無や時期等の詳細は、観光協会または、各お寺へお問い合わせください。
- お寺によっては周辺に駐車場がなかったり、お寺までの道が細く、すれ違いが困難な場所があります。駐車場やルートについては、出発前に確認しましょう。
- ご朱印は、お経を書き写してお寺に納める「納経」の証であったといわれていますが、現代では、ほとんどの寺社で納経をしなくてもご朱印がいただける参拝の証となっています。ご朱印をいただく際には、じっくりと参拝して、それぞれのお寺の雰囲気味わってみてください。

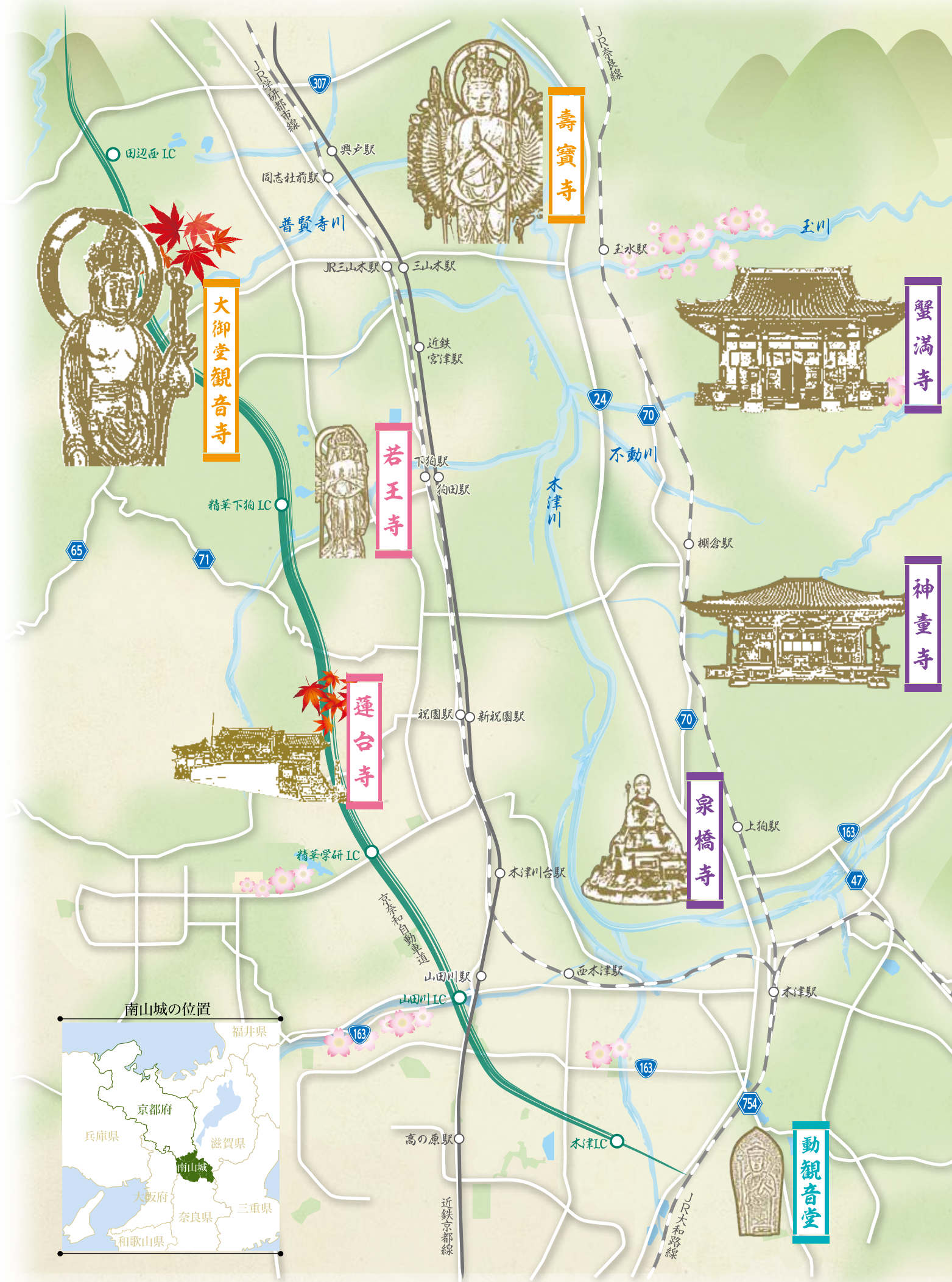
南山城三十三所観音霊場一覧及び目次



| 札所番号 | 霊場名 | 掲載ページ |
|-------|----------------------|-------|
| 第一番 | 瓶原 海住山寺 | P 5 |
| 第二番 | 海住山寺 奥の院 老宿坊 | P 6 |
| 第三番 | 加茂 燈明寺 [廃寺] | P 6 |
| 第四番 | 加茂 常念寺 | P 7 |
| 第五番 | 加茂 観音寺 [廃寺] → 地蔵院 | ※ |
| 第六番 | 鹿背山 浄勝寺 [廃寺] → 西念寺 | P 7 |
| 第七番 | 上津 誓願寺 | ※ |
| 第八番 | 木津 観音堂 [廃寺] | ※ |
| 第九番 | 市坂 観音堂 | P 7 |
| 第十番 | 相楽 法泉寺 | P 8 |
| 第十一番 | 祝園 禅福寺 | ※ |
| 第十二番 | 南庄 願成寺 [廃寺] → 蓮台寺 | P 8 |
| 第十三番 | 北稻八間 観音寺 | ※ |
| 第十四番 | 北稻八間 岡本寺 [廃寺] → 観音寺 | ※ |
| 第十五番 | 僧坊鞍岡山 神宮寺 [廃寺] → 若王寺 | P 8 |
| 第十六番 | 下伯僧坊 若王寺 | P 8 |
| 第十七番 | 菱田 長福寺 [廃寺] → 西方寺 | P 9 |
| 第十八番 | 宮ノ口 観音堂 [廃寺] → 法雲寺 | P 9 |
| 第十九番 | 江津宮 恵日寺 [廃寺] → 壽寶寺 | P 9 |
| 第二十番 | 出垣内 念仏寺 | ※ |
| 第二十一番 | 普賢寺 大御堂観音寺 | P10 |
| 第二十二番 | 興戸 観音寺 [廃寺] → 光照寺 | P11 |
| 第二十三番 | 北谷 日光寺 | P11 |
| 第二十四番 | 飯岡 蓮華寺 [廃寺] → 阿弥陀寺 | P11 |
| 第二十五番 | 水無 東福寺 [廃寺] → 西福寺 | ※ |
| 第二十六番 | 井手山 栄福寺 [廃寺] → 地蔵禅院 | P12 |
| 第二十七番 | 石垣 観音寺 [廃寺] → 西福寺 | P12 |
| 第二十八番 | 綺田国見 観音堂 | ※ |
| 第二十九番 | 綺田 蟹満寺 | P13 |
| 第三十番 | 平尾 福王寺 [廃寺] → 十輪寺 | ※ |
| 第三十一番 | 神童寺 蔵王堂 | P14 |
| 第三十二番 | 粕松の尾 伝興寺 [廃寺] | ※ |
| 第三十三番 | 地蔵の前 泉橋寺 | P14 |

| | |
|----------------------|-----|
| ◇ 加茂 エリアMAP 寄り道スポット | P15 |
| ◇ 木津 エリアMAP 寄り道スポット | P16 |
| ◇ 精華 エリアMAP 寄り道スポット | P17 |
| ◇ 京田辺 エリアMAP 寄り道スポット | P18 |
| ◇ 井手 エリアMAP 寄り道スポット | P19 |
| ◇ 山城 エリアMAP 寄り道スポット | P20 |
| ◇ 南山城への交通アクセス | P21 |
| ◇ 観音様のいろいろ・豆知識用語いろいろ | P22 |

※印は、廃寺等のため掲載しておりません。



大御堂観音寺

壽寶寺

若王寺

蓮台寺

泉橋寺

蟹満寺

神臺寺

動観音堂

南山城の位置



癒しと救いを求めて 南山城三十三所

第一番

1

瓶原 みかのほら

海住山寺 かいじゅうせんじ



QRコードを読みとっていただく、Web版をご覧ください。



ふだらくのなに
むつまじきこの山も
ちぎりありてか
けふみかのはら



鎌倉時代 本瓦葺 17.7m 国宝

鎌倉時代の五重塔の貴重な遺構で、総高17.7mと、室生寺に次いで小さい。貞慶(じょうけい)が舍利を安置するために建立を始め、その没後建保2年(1214)に完成しました。全体的に細身ですが、初重に設けられた吹放ちの裳階(もこし)が安定感を与えます。

豆知識 / 裳階(もこし)

仏堂・仏塔などの軒下壁面に取り付けられた庇(ひさし)状の構造物。



寺伝では、創建は天平七年(七三五)聖武天皇が大仏造立平安祈願の為、良弁僧正に命じて建立させ、十一面観音を安置し、観音寺と名付けたのが始まりで、のち保延三年(一一三七)に焼失したと伝わります。

その後、承元二年(一一〇八)笠置寺にいた解脫上人貞慶がこの観音寺の廃址に移り住み、草庵をいとなみ、海住山寺と名を改め復興しました。この後を継いだ慈心上人(じしんしょうにん)は先師の遺志をうけ、戒律の道場として、寺観の整備に力をつくしました。現存の五重塔(国宝)は、建保二年(一一二四)慈心上人によって建てられたもので、心柱が初層で止められている点は、建築史上有名です。のち、寺門は大いに栄えて塔頭13院32坊をかぞえた時期もありましたが、天正年間には本堂を中心に整備統一されました。ご本尊の十一面観音は厄除の観音様として信仰を集めています。

※五重塔開扉と特別公開は、毎年10月最終土曜日から10日間

【本尊十一面観音立像】

榎(かや)材の一木造の立像です。顔は面長で、目は細く、独特の神秘感が漂います。条帛(じょうはく)や天衣の衣文は縁に丸みがあり、一見、乾漆像の衣文のように柔らかく表されています。

平安時代 木造 167.9cm 重文

海住山寺に根を張るヤマモモ。



境内の山林に生育する大木の中でもとりわけ大きく、枝の一部が本坊の庭に張り出すほどで、訪れる人の目を引いています。府内最大のヤマモモです。





もち上げ大師



癒される落ち着いた古寺です。

木津川市内を一望できる山の中腹にある山寺。鎌倉時代の傑作・五重塔が有名ですが、境内には、なすの腰かけやもち上げ大師など、ちょっと変わったものがあります。

境内の北東に緑に包まれた奥の院(通常非公開)があります。
慈心上人は、貞慶に弟子入りを懇請すること三日三晩、ようやく許された、というゆかりの庭石も奥の院にあります。慈心上人は、瓶原郷共有の大井手用水の完成者としても伝えられている名僧でありました。当寺院には、海住山寺縁起絵巻が残されていて、良弁による開創の伝承や、解脱上人と慈心上人による復興のようす、観音像の霊験などが描かれています。

老宿坊



おひらくのやじりに
ゆめをたませとや
たにのみずをと
みねのまつかぜ

秋の特別期間のみ公開

第二番

2 海住山寺奥の院

かいじゅうせんじ おく

ろろう しゆくぼう

おひらくのやじりに
ゆめをたませとや
たにのみずをと
みねのまつかぜ

【奥の院本尊十一面観音立像】

頭上の化仏や両腕、天衣の垂下部をふくめ一材から彫出されており、表面に彩色をほどこさない檀像です。鐺のある鋭い眉、切れ長の眼など彫りは、小像ながら観音の威厳と優雅さを兼ね備えた優品。海住山寺中興の祖解脱上人貞慶の念持仏であったと伝えられています。

平安時代 木造 45.5cm 重文



1 2 補陀洛山 海住山寺

- 電 0774-76-2256
- 住 木津川市加茂町例幣海住山20
- 時 9:00~16:30
- 駐 20台(参拝時は無料)
- アクセス ■JR加茂駅からコミュニティバス奥畑線(平日運行)で「海住山寺口」下車、徒歩約25分
■奈良交通バスで「岡崎」下車、徒歩約40分
■JR加茂駅からタクシーで約10分

豆知識 / 持ち物・蓮華

泥の中から花を咲かせることから煩惱や苦しいことに汚れることのない悟りの象徴です。



【5 軀の観音像】〈府指定有形文化財〉

作りや法量に差異が認められ、本来一具として制作されたものではないようです。不空羅索観音像は、胎内から発見された文書から、徳治3年(1308)正月11日に1日で作られたことが確認され、他の4像もほぼこの頃の造立と考えられています。

秋の特別期間のみ公開



馬頭観音立像

鎌倉時代 木造 111cm 府指定



聖観音立像

鎌倉時代 木造 109cm 府指定



本尊【千手観音立像】

千手観音立像は十一面、四十二臂の通常のもので、燈明寺の本尊と伝えられています。

鎌倉時代 木造 172cm 府指定



十一面観音立像

鎌倉時代 木造 182cm 府指定



不空羅索観音立像

鎌倉時代 木造 180cm 府指定



三重塔 (横浜・三深園) ©(一社)木津川市観光協会

あま風に ひがしの
あくふてらのにわ
くさばのつゆは
わけし たまかも

3 加茂燈明寺

第三番

廢寺



燈明寺(東明寺)の創建については奈良時代とする説と平安時代とする説があります。鎌倉時代末頃に整備されましたが、その後は荒廃と再興を繰り返したようです。『拾遺都名所図会』巻之四に18世紀末の燈明寺の全容が描かれていますが、三重塔は大正三年に、本堂は昭和五七年に横浜市の三深園に移され(いずれも重要文化財)、今に残るのは寛文二年(一六七二)に建てられた庫裏と、鎮守社であった御霊神社です。

本堂の跡地には昭和六〇年に収蔵庫が建てられ、観音像5軀を初めとする文化財が収納されています。一般財団法人川合京都仏教美術財団が維持管理しており、毎年文化の日前後に数日間公開されています。



旧燈明寺収蔵庫 ©(一社)木津川市観光協会

3 旧燈明寺収蔵庫

- 電 075-761-9670 (一般財団法人 川合京都仏教美術財団)
- 住 木津川市加茂町兎並寺山42-1
- 駐 無し
- アクセス ■JR加茂駅から徒歩約15分 ■コミュニティバス山田線(平日運行予約型乗合タクシー)で「兎並」下車、徒歩約5分

4 加茂常念寺



かんのくにやこの
いのちへかむ村の
まつのとまほに
おもふてらかな

室町時代、天台宗の真盛上人が伊賀上野から京へのぼる途中、加茂に立ち寄り、念仏の法話をつとめ、この時円阿弥が本願となり盛憲が開基となり、加茂郷の市街地船屋に念佛伝導のために寺を創建したのが「常念寺」です。その後、正徳二年の大水害に遭い、現在地に移りました。また、山腹には平和観音像(身丈6メートル、平成一二年造立)が高台から加茂の郷一円を見守っています。



室町時代 木造 92cm

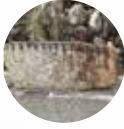
予約公開

数多くの仏像等が
伝えられています



本尊阿弥陀如来像をはじめ、地藏菩薩像、十一面観音菩薩像、十王像などがあり、書画では(国重文)仏涅槃図、三千仏図、真盛上人六字名号などがあります。

石造で、盛憲の六字名号板碑、大坂城再建築城石に使われなかった「残念石」があります。



4 多聞山 常念寺

電 0774-76-2324 【お寺の拝観は要予約】

住 木津川市加茂町里小田22 料 お心持

時 10:00~16:00 駐 10台

アクセス ■JR加茂駅から徒歩約10分
■コミュニティバス南加茂台線(平日運行予約型乗合タクシー)で「南加茂台1丁目」下車、徒歩約6分

【十一面観音立像】

平成時代に破損部分を修復して全体に金箔を張り替え、春日厨子を新調しました。

6 鹿背山 浄勝寺



この地を訪れた行基が、狩人の捕えた鹿を食べて吐きだしたところ、鹿は生き返って走り去ったとの縁起を持つ鹿山寺が今の西念寺東側一帯にあったとされます。江戸時代にこの地にあったことが知られるのは、浄勝寺と西念寺です。明治五年に観音像をはじめ、寛政一十保年間の南山城三十三所六番札所の詠歌額二点など、浄勝寺什物が

【継承寺院】西念寺



※継承寺院の御朱印です

西念寺に引き継がれた記録が残っています。



【一手観音立像】

時代不詳

非公開

6 鹿山 西念寺

電 0774-72-0175

住 木津川市鹿背山鹿曲田65 駐 無し

アクセス ■JR木津駅から徒歩約40分
■コミュニティバス(木-2)で「鹿背山」下車、徒歩約15分

9 市坂 観音堂



2メートル四方ほどの御堂が3棟連続して並んでいる右側が観音堂です。奈良春日山におわした石の大観音さまは、多くの村の人たちが合力しても、ピクともしなかったのですが、市坂村の村人の真心が通じたのか、ようやくこの地に動座されました。村人の安全と繁栄を、見守り続けてこられた「動観音」と言い伝えられ、今日も大切に祀られています。御堂の東木には、大永四年(一五二四)に堂建立、慶応二年(一八六六)に再興棟上などが墨書されています。現在の御堂は昭和四十七年のものです。

かぜわたる このまの
月のうつろにぞ
うつくほとけの
みかげなるらん



【十一面観音立像】

室町時代 石造 約150cm

9 動 観音堂

住 木津川市木津市坂幣羅坂103 時 終日 駐 最寄り空地に3台程

アクセス ■JR木津駅から徒歩約30分
■コミュニティバス(木-1)で「市坂南口」下車すぐ

第十番

10 相楽法泉寺



万治年間(一六五八〜一六六一)、僧賢盛が開基し、明治に近くの専教寺や地藏院が統合して現在に至ると伝わります。本尊の十一面観音は平安時代の作ですが、本来どの寺にあったかは不明です。昭和三八年に裏山の火災で避難した際に破損し、一時京都国立博物館に寄託されていましたが御厨子の修理を終えて今は戻っております。

この本堂は社寺建築で有名な西岡常一棟梁が手がけたものです。なお、高台にある寺境内からは東方に木津から奈良一帯の、四季折々の素晴らしい眺めを望めます。

非公開



©木津川市教育委員会

【十一面観音立像】

東向きの観音さんとして親しまれている本尊の十一面観音立像は平安時代の作で重要文化財です。

平安時代 木造 86cm 重文



10 蓮華山 法泉寺

電 0774-72-8905

住 木津川市木津相楽オノ神43

時 9:00~17:00 駐 10台

アクセス ■近鉄山田川駅から徒歩約15分

■近鉄高の原駅から徒歩約20分

■JR西木津駅から徒歩約20分

第十五番

15 僧坊鞍岡山神宮寺



【継承寺院】

若王寺

鞍岡神社の階段を上り詰めた右手の手前の森に少し平らな部分があり、そこに明治の初期まで鞍岡神社の神宮寺がありました。現在、若王寺に、鞍岡神社神宮寺のものといわれる十一面観音坐像と神宮寺の銘が刻まれた石塔の台石が残されています。

予約公開



【十一面観音坐像】

大師堂にある十一面観音坐像は大きさから井手の橘講の南山城巡礼記に「御たけ八寸」と記された鞍岡神社神宮寺のものと推測されます。

時代不詳 木造 24cm

第十二番

12 南庄願成寺



【継承寺院】

蓮台寺

昔「南庄」とよばれた南稻八妻の一隅に願成寺がありました。明治七年廃寺となり、近くの蓮台寺へ合併されました。その際に、観音像をはじめ、薬師堂や諸什物が移されました。願成寺は、明応二年(一四九三)に、山城国一揆の最後の砦となった稲屋妻城が攻め滅ばされた際、討ち死にした人々の供養のために建立されたと伝わっています。

予約公開



【聖観音立像】

頭体幹部を針葉樹材の一材から彫出しています。頭頂部や膝から下の脚部、両体側部など後補部が多いものの、頭体幹部は平安時代の当初の造形を残します。

平安時代 木造 106.1cm 京都府暫定登録文化財

12 松雲山 蓮台寺

電 0774-94-2014 【お寺の拝観は要予約】

住 精華町大字南稻八妻小字政ヶ谷132 時 予約の上

アクセス ■JR祝園駅、近鉄新祝園駅から徒歩約20分
■精華くるりんバスで「南庄」下車、徒歩約2分
■奈良交通バスで「精華町役場東」または「植田・南稻八妻」下車、徒歩約10分

第十六番

16 下狗僧坊若王寺



予約公開



寺伝によると行基の建立といわれています。また別に、この地に貞観三年(八六一)に智証大師円珍が開いた円満院があり、当寺はそれに関連する寺院であったとも伝えられています。その後、僧経空慈典が京都・禅林寺(永観堂)から梵鐘を譲り受け、当寺を復興しました。

【千手観音立像】

本尊として智証大師坐像(重要文化財)が安置されている若王寺の大師堂に千手観音立像があります。

しるべある とよに
まかせて しもつこま
わかきもおひも
十こへひとこみ

15 16 鞍岡山 若王寺

電 0774-94-4055 【お寺の拝観は要予約】

住 精華町大字下拍小字林前9 時 10:00~16:00

アクセス ■JR下拍駅、近鉄拍田駅から徒歩約6分

第十七番 廃寺

17 菱田長福寺

【継承寺院】西方寺



真言宗長福寺は、村の東方にあり、百四十四坪の境内を有していましたが、今は廃寺となっています。長福寺の本尊や什物を引き継いだ近くの西方寺に、天保八年の版木が残っています。そこには「本尊は十一面観音で、一千余年を経るが、文政十三年出火、本堂客殿共に焼失、本堂再建が自力では困難ゆえ、助力を希う」とあり、もう片面には観音堂と観音像が刻まれました。古来、安産の仏として信仰があつたというこの十一面観音は、西方寺の観音堂に安置されています。昔、開扉すると眼がつぶれる、と秘伝であったのは、玉眼で眼光の鋭いせいだったのだろうといわれています。

みちとひし たのものを
すきて いそいでしに
とくのりのみぞ
みるぞたうとま

17 迎接山 西方寺
電 0774-94-3712
【お寺の拝観は要予約・観音様非公開】
住 精華町大字菱田小字西ノ口21
アクセス ■JR下狛駅、近鉄狛田駅から徒歩約5分

第十八番 廃寺

18 宮ノ口観音堂

【継承寺院】法雲寺



観音像は、白山神社境内にあった法雲寺(廃寺)に安置されていましたが、明治の廃仏毀釈を逃れるため近くの西念寺(現法雲寺)に移されました。一時修理調査のため、京都国立博物館に預けられました。修理の際、台座蓮弁の五枚に墨書で描かれた戯画が発見され、平安絵画研究の貴重な資料として話題になったといわれています。その後地元

に戻すことが決まり、本堂を建て替え、平成二十七年に戻ってきました。

第十九番 廃寺

19 江津宮惠日寺

【継承寺院】壽寶寺



※継承寺院の御朱印です

めぐむ日の てらし
山もと たづねえつ
ほのくあけの
たまがきも みゆ



【十一面千手千眼観音立像】
十一面をいただく千手観音立像で、左右に各五百の手を持ち、持ち物のない手には、墨で目が記されている。葛井寺・唐招提寺の千手観音と共に、実際に千本以上の手がある3大名作とされています。

平安時代 木造 181cm 重文

惠日寺は今現在廃寺になっており、佐牙神社の階段の所にかつて惠日寺があつたことを示す立て札があります。惠日寺は、佐牙神社の神宮寺であつたと考えられています。また、惠日寺には、かつて五大明王像もあり、今現在二体が壽寶寺に残り三体が近くの正福寺に安置されています。継承寺院の壽寶寺は、文武天皇慶雲元年(七〇四)に創建したと伝えられています。古くは「山本の大寺」といい、七堂伽藍を備えていましたが、度重なる木津川の洪水により、移転を繰り返しました。享保一七年(七三二)に現在地に移転し、明治初めに近隣の寺々と合併しました。壽寶寺の本尊、眉目秀麗な長身の十一面千手千眼観音立像は重要文化財に指定されています。



【十一面観音立像】
頭体の幹部を針葉樹(カヤカ)材で彫出し、両耳の位置で前後に割矧ぎ、内割り。頭部下で割首。現在はほとんど素地を呈しているが、もとは彩色仕上げで下半身の着衣部に花丸文が残っています。

18 日向山 法雲寺
住 京田辺市宮津白山5
アクセス ■JR下狛駅、近鉄宮津駅から徒歩約20分

豆知識 / 戯画(ギガ)
戯れに描いた絵。また、誇張したり風刺を交えたりして描いたこっけいな絵。

19 開運山 壽寶寺
電 0774-65-3422 【お寺の拝観は要予約】 料 300円
住 京田辺市三山木塔ノ島20 時 9:00~17:00 駐 数台(公民館前)
アクセス ■JR三山木駅、近鉄三山木駅から徒歩約7分

平安時代 木造 178cm 府指定

21

普賢寺

大御堂観音寺

おのみどころのんじ



かみといゝ ぼとけと
いひて へだてなまゝ
こゝろひとつに
あふぎてもみん



天武天皇の勅願により義淵僧正が創建。その後、聖武天皇の御願により良弁僧正が伽藍を増築し、息長山普賢教法寺と号し、十二面観音立像を安置したといわれています。法相・三論・華嚴の三宗を兼ね、七堂伽藍は壮麗を極めて「筒城の大寺」と呼ばれた大寺院であったと伝えられています。幾度となく火災に見舞われ、永享九年（一四三七）の火事では、諸堂13、僧坊20余りを数えた建物のほとんどが失われ、大御堂だけが再建され現在に至っています。現在は本堂と庭園が周囲の里山と調和し、美しい姿を見せており、春には参道の桜並木や一面に広がる菜の花が、秋には紅葉が一際目を引きまします。

21 大御堂観音寺

電 0774-62-0668 料 400円
住 京田辺市普賢寺下大門13
駐 10台以上(無料) 時 9:00~17:00
アクセス
■JR三山木駅、近鉄三山木駅から
奈良交通バスで「普賢寺」下車、徒歩約5分



豆知識/割矧ぎ造

18番

割矧ぎ造(わりはぎづくり)

木彫の造像技法の一種。一木(いちぼく)からある程度彫り出した像に鑿(のみ)を入れて前後または左右に木目に沿って割り、寄木(よせぎ)造と同程度の内割(うちぐり)を施してからふたたびこれを矧ぎ合わせて仕上げをした像で、単なる一木造よりずっと大きな内割ができ、芯(しん)も除け、重量も軽くなります。

豆知識/手は1,000本あるの？

19番

仏教で使われる「千」という数字は「限りなく多くの」という意味で使われることがあり、この千の手は、あらゆる方法で人々を救う千手観音菩薩の慈悲の象徴です。多くの千手観音菩薩像の手は42本です。合掌した手が2本と左右20本ずつの合計42本です。正しい名前は千手千眼観自在菩薩です。

豆知識/一木式木心乾漆造・漆箔

21番

一木式木心乾漆造(いちぼくしきもくしんかんしつづくり)とは、大まかな木彫像の原型を作り、その原型に漆と木屎漆(こくそうし)を盛り上げて細部整形し、像を完成させる技法です。漆箔(しっぽく)とは、下地の上に漆を塗り金箔で表面を加工しています。

【十一面観音立像】

天平仏を代表する仏像で、昭和28年国宝指定。天平16年(744)良弁僧正開基時の仏像。一木式木心乾漆造、漆箔仕上げ。国宝を間近で拜むことができるのは圧巻。「普賢寺谷に天平の御仏災厄を乗りこえ国宝に」

奈良時代 木心乾漆造 183cm 国宝

22 興戸 観音寺

【継承寺院】 光照寺

廃寺



非公開



うさほひの あめを
おこしてとぼそには
あらしそわがぬ
もりのうちかな

【聖観音立像】

頭体を一材から彫出する一木造で、現状では肉身部金泥、着衣部彩色。一木造ながら重厚感はなく、面相を見ると細められた目、小振りの鼻・口などから穏やかで優しい表情を読みとることができます。

平安時代 木造 71.1cm

酒屋神社の境内には、酒造神を祀るといふ本殿や末社が点在しますが、明治九年までは、神宮寺として観音寺も東北の隅にあつたといひます。(『興戸の歴史』)しかし廃寺跡は確定できていません。「観音寺の什室は、光照寺と寿命寺に振り分けて引き継がれた」とのいい伝えがあり、光照寺の収蔵庫には、「御長二尺一寸」の聖観音が安置されています。

22 青松山 光照寺

電 0774-62-2336 (寿命寺) 【お寺の拝観は要予約】

住 京田辺市興戸御垣内68 (寿命寺)

京田辺市興戸南鋒立119番地 (光照寺) 駐 無し

アクセス ■JR同志社駅前、近鉄興戸駅から徒歩約10分

豆知識 / 1尺とは、1寸とは

1尺=30.3cm 1寸=3.0303cm

23 北谷 日光寺

縁起によれば、神亀元年(七二四)行基菩薩が当地に巡錫されたのを機に、聖観音を本尊として日光寺を建立しました。しかし元和二年(一六一六)に堂宇の焼失に遭いました。その後、法誉智春上人がこの地に草庵をかまえ浄土宗に改宗し、念仏弘道の道場として隆盛しました。寛永三年(一六二六)村民の寄付により観音堂を建立し、本尊観音菩薩を安置しましたが再び堂宇が焼失し

ました。享保四年開譽上人代に当地の住人代官浅井正隆氏の寄進により再建、多くの参詣者を集めました。昭和三十六年の室戸台風により、二〇〇年以上続いた本堂は全壊、庫裡も半壊しました。その後、以前よりかなり縮小となり、再建されたのが現在の日光寺です。



非公開



【聖観音坐像】

本像については「日光寺略縁起」に「本尊聖観世音菩薩者行基菩薩一刀三札の御直作也・云々」とあります。

室町時代 木造 33.9cm

23 普門山 日光寺

住 京田辺市三山木天神山

24 飯岡 蓮華寺

【継承寺院】 阿弥陀寺

廃寺



予約公開



飯岡に登ると、茶園の隅に「蓮華寺遺跡」と刻まれた碑が立ち、そばには七井の一つが残っています。

飯岡は古墳群、穴山梅雪の墓、七井等、歴史にみちた土地です。

明治八年、境内四百六坪檀家二十軒の蓮華寺を壽寶寺へ合併したいとの願いが出され受理されました。(『田辺町近世近代資料集』)現在壽寶寺に安置されている聖徳太子像と阿弥陀寺本堂の十一面観音像は蓮華寺から受け継いだものと伝わっています。

これぞこの ついの
むかへと いひのをか
はちすのはなの
てらにのぼりて

24 光明山 阿弥陀寺

電 0774-62-3819

【お寺の拝観は要予約】

住 京田辺市飯岡東原11 時 9:00~17:00

駐 飯岡公民館・飯岡区駐車場に駐車可能

アクセス ■JR三山木駅、近鉄三山木駅から徒歩約25分

【十一面観音立像】

室町時代 36.8cm

26 井手山 栄福寺

【継承寺院】地蔵禅院



※継承寺院の御朱印です



寺伝によると、当院は白鳳の頃の橘諸兄による草創で、寛永の頃に復興、江戸時代中期には末寺18カ寺もあり、野崎観音もその一つであったといわれています。地蔵禅院の記録によると、門前にあった栄福寺も末寺で、玉津岡神社にあった千手観世音菩薩は、明治初期の神仏分離政策で、地蔵禅院へ移されました。その後明治一四年、五名の発起人が観音修繕の寄附をよびかけ、修復を終えたといえます。お寺には詠歌額や「栄福寺」銘の石灯籠も現存しています。

26 玉峰山 地蔵禅院

- 住 井手町大字井手小字東垣内16 註 無し
- 料 無料 (桜の時期は志納金をお願いします)
- アクセス ■JR玉水駅から徒歩約30分

非公開



年代不詳 寄木造 150cm

いでやまのばりぐてうへもなきみちに いれとのおへなごへ

【千手観世音菩薩立像】

1684年(貞享元年)の雍州府志によると、井手左大臣橘諸兄公(684-757)の持佛であったと伝えられています。家門繁栄・万難消滅の功德を施与される靈験あらたかな観音様です。



京都府の天然記念物

井手の里を一望できる高台になっています。境内にある樹齢300年近い「地蔵院のシダレザクラ」は府の天然記念物に指定されています。



予約公開

観音寺の廃寺跡は確定できていません。明治初年までは相楽郡内であった石垣村の観音寺は、二十六番井手山栄福寺から「十丁」の場所といわれているので、現在の石垣地区でもかなり東よりの地にあつたと推測されます。明治六年十一月に廃寺となり什宝物は玉水の西福寺に引き継がれました。「十一面観音厨子入り本観音寺分舎体」という記録の通り、「三尺五寸」の観音様は、廃寺となった玉井寺や東福寺の仏像群とともに安置されています。

いしかにのまばつゆのとくくおもひのたまのかずぞかすぬる

【十一面観音立像】

室町時代 木造 96.5cm

27 遍照山 西福寺

- 電 0774-82-2427 【お寺の拝観は要予約】
- 料 500円 註 3台
- 住 井手町井手柏原73 時 9:00~16:00
- アクセス ■JR玉水駅から徒歩約5分



27 石垣 観音寺

【継承寺院】西福寺



※継承寺院の御朱印です



追記

西福寺には第25番東福寺の聖観音立像と、第27番観音寺の十一面観音立像が廃寺により移され、第25番の本尊は後に盗難により失われますが、第27番の本尊が現在も安置されています。

29 綺田 蟹満寺



かにみつる てらに
あゆみを はこぶべし
あまねさかどの
まもりまくにち



©(一社)木津川市観光協会

蟹満寺の歴史的起源は良くわかっていません。今では、控えめな大きさの寺院ですが、発掘調査で、一三〇〇年前は大きな寺院であったということがわかりました。その規模からこの地域の大きな氏族の建立であると考えられています。その一族の特色として織物の優れた技術があった為か、神仏の堂塔に供えられる織物の幡の総称である「神幡」^{かばた}の名が付けられたようで、建立当初の寺名として「紙幢多寺」「綺寺」という名が古文書に見られます。蟹満寺の創建時は大きな古代寺院であったと考えられています。火災等により荒廃していったと考えられています。その後、日本で観音菩薩の信仰が流行するに伴い、この地方の蟹の恩返し^{かばた}の仏教説話がで、平安時代後期に書かれた『今昔物語集』等の説話集に取り上げられ、紙幢多寺と結びつきその説話に基づく蟹満寺(蟹が満ちる寺)という寺名に名前が変わったとされています。

国宝の釈迦如来坐像(像高2.403m、重222kgの金銅製の造立は奈良時代以前と考えられ、同様の初期の丈六金銅仏は飛鳥寺釈迦如来坐像(飛鳥大仏)、旧山田寺仏頭、薬師寺薬師如来坐像のみです。

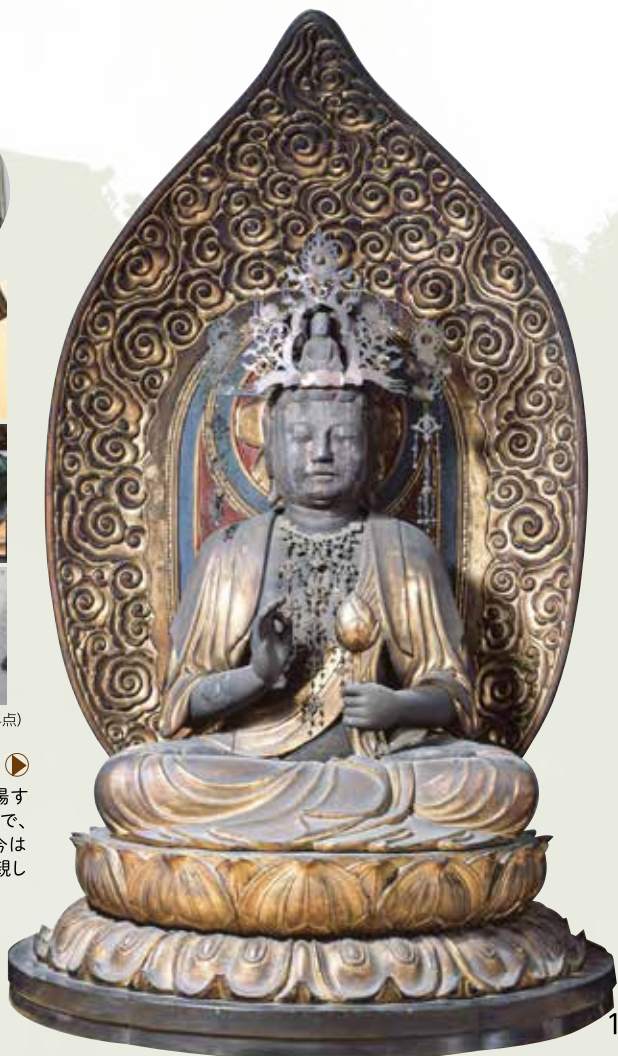


©(一社)木津川市観光協会

蟹がモチーフ



©(一社)木津川市観光協会(4点)



【聖観音坐像】

寺の創建についての説話に登場する観音像とされています。近年まで、境内の観音堂にありましたが、今は本堂に安置されています。優しく親しみやすい像です。

平安時代(頭部のみ)

木造 77.0cm

©飛鳥園

29 普門山 蟹満寺

電 0774-86-2577 住 木津川市山城町綺田浜36
時 8:00~16:00 料 500円(一般/30人以上450円)・450円(高校生)・200円(小・中学生)
駐 20台(無料)
アクセス ■JR棚倉駅から徒歩約20分
■コミュニティバス山城線(平日運行)で「蟹満寺口」下車、徒歩約10分 ■JR玉水駅から徒歩約30分



「蟹の恩返し」
縁起で有名

この辺りに観音様を篤く信仰する一家が住んでいました。ある日娘は村人から沢蟹を助け、一方で父は娘を嫁にする条件として、蛇から蛙を助けました。蛇は人の姿となって娘を迎えに来るが一家は家に籠り一心に経を唱え観音様に救いを求めました。蛇は大蛇となって怒り狂うが夜明けに突然静まり外を見ると沢山の蟹と蛇が死んでいました。この蟹と蛇を吊う為に建てられた御堂が蟹満寺の基とされています。

28 綺田 国見 観音堂

※蟹満寺で御朱印を
いただくことができます。



31 神童寺 蔵王堂



神童寺は、聖徳太子（五七四〜六二二）によって創建されたと伝わっています。また、六七五年に山岳信仰、修験道の開祖とされる役小角が神童寺を訪ね、修行を続けたといわれています。このとき2人の神童が役小角の前に現れました。役小角は、その二神童の助力により、日本独自の山岳信仰、修験道の本尊である「蔵王権現」を刻みました。



重文

©(一社)木津川市観光協会

全山焼失の後、神童寺の本尊、蔵王権現像が祀られているお堂は、1406年に再建されました。以前は「蔵王堂」と呼ばれていたこのお堂は、現在は、本堂となっており、国の重要文化財に指定されています。



平安時代

©木津川市教育委員会

花ならで たゞし
もぐさ わがほとけ
おもひいればぞ
またよしのやま

【観音菩薩立像】

『南山城三十三所巡礼記』に「御たけ五尺」の「正くはん音（聖観音）」と記される像と見られます。



3月下旬～4月上旬、
鐘楼の脇の山上から
眺める桜とミツバツツジ

31 北吉野山 神童寺

- 電 0774-86-2161 駐 あり
- 住 木津川市山城町神童子不晴谷112 時 9:00～17:00
- 料 500円(障害者割引料金/300円)中学生以下無料
- アクセス ■JR棚倉駅から徒歩約40分

33 地蔵の前 泉橋寺



平安時代 36.5cm

©木津川市教育委員会

非公開

奈良時代の高僧行基が建てた四十九院の一つで、天平一二年（七四〇）に開かれた発菩薩院、隆福尼院、泉布施屋を前身とする寺院です。徳治三年（一三〇八）に造られた石の地蔵は、応仁の乱の最中、文明三年（一四七二）地蔵堂もろとも焼かれて二〇〇年以上そのままになっていましたが、元禄三年（一六九〇）に、頭部と両手が修復されたといわれています。境内にある五輪塔は国の重要文化財に指定されています。ここは古北陸道として木津川を渡った要所で、大雨になれば交通が途絶え、行路病者たちや多くの人々が渡しの近辺に滞留せざるをえなくなるため、そのような人々の救済のために建てられたものかもしれません。

もろともに わたす
ちからは たのもしき
いづみのはしの
みてらとひつ、

【菩薩形立像】

本堂脇壇に安置されている聖観音とみられる像です。

33 玉龍山 泉橋寺

- 電 0774-86-2426 駐 あり
- 時 9:00～17:00
- 住 木津川市山城町上粕西下55
- アクセス ■ JR上粕駅から徒歩約10分
■ JR木津駅から徒歩約20分



高さ4.58メートルあり
日本最大級の石地藏として有名です

加茂エリア MAP 寄り道スポット



1 鑄銭司跡 (銭司遺跡)

我が国の古い貨幣として知られている「和同開珎」を鑄造していたところです。奈良時代の鑄銭司は現在の造幣局に当たります。銭司(ぜず)の地名は、この鑄銭司に由来するものです。



2 くにのみや学習館

恭仁宮の再現DVDの上映や、発掘調査などにより出土した瓦・土器等の展示を行っています。恭仁宮の当時の状況について、思いをはせることができます。



3 恭仁宮跡・山城国分寺跡

聖武天皇が天平12年(740)に平京城から遷都した都の跡地です。期間は5年と短いですが、歴史上極めて重要な時期であったといえます。国分寺跡には七重塔の礎石も残っています。



4 岡田鴨神社

京都・下鴨神社の元宮で延喜式内社の古社であり、祭神は日本サッカー協会のシンボルマークで著名な八咫鳥が化身の賀茂建角身命(かもたけつねみのみこと)です。本殿は江戸時代に春日大社より移築された春日造りです。



5 大仏鉄道遺構

「大仏鉄道」は、今から100年ほど前、現在のJR加茂駅と奈良駅を結ぶ関西鉄道(かんせいてつどう)の路線の通称です。僅か9年間で廃止となりましたが、線路跡の遺構が里山と共に残されています。



6 岩船寺

天平元年(729)、聖武天皇が行基に命じて阿弥陀堂を建立したのはじまりと伝えられています。浄瑠璃寺とともに四季折々の花が咲き誇る「花の寺」でもあります。



7 当尾石仏巡り

南都仏教の僧が修行した聖地が、いつしか当尾とよばれるようになりました。鎌倉時代、多くの摩崖仏が造立されました。癒しのハイキングコースでもあります。



8 浄瑠璃寺

永承二年(1047)、僧義明が薬師如来を安置し開基したと伝えられます。池をはさんで、東に薬師如来、西に阿弥陀如来(九体仏)を配置し、境内全体で極楽浄土を表現しています。

木津エリア MAP 寄り道スポット



1 上津遺跡

数多くの遺構や遺物が発見され、奈良時代における木津町の重要性を明らかにした遺跡です。木津川南岸に設けられた平城京の港「泉津」におかれた官の施設と考えられています。



2 御霊神社

木津の港当時からあったのかどうか来歴は全く不明です。なお、神社の絵馬に江戸時代末期の木津港の賑わいが描かれてあります。



3 安福寺

境内には、十三重石塔があり、平重衡の墓と寺伝で伝えられています。境内の大きな桜の樹は空が隠れるほど見事に花開きます。



4 正覚寺

木津本町界隈の一角にある正覚寺には、江戸時代の正徳2年(1712)の木津川大洪水の際の供養仏が山門右に安置されています。この供養仏は木津川の堤防上にあったものが当寺に移設されたと伝わっています。



5 木津惣墓五輪塔

鎌倉時代の正応5年(1292)に建立されたもので、鎌倉時代の造立銘のある五輪塔として貴重で、重要文化財に指定されています。この辺りに南山城三十三所第八番霊場の木津観音堂(旧長福寺)があったといわれています。



6 岡田国神社

国道24号線交差点角に立つ鳥居からの参道がJRを跨いで本殿に通じるのが岡田国神社です。旧社殿は室町時代の惣の社の姿を伝える重要なものとして京都府登録文化財、神社の森は京都府文化財環境保全地区となっています。



7 相楽神社

式内社として古い歴史をもち、御田祭りや餅花などの宮座行事が今も行われています。本殿は室町時代初期に造営されたものとみられており、重要文化財に指定されています。



8 福寿園CHA遊学パーク

関西文化学術研究都市内に位置するCHA遊学パークは、世界の人々に愛され親しまれ続ける茶に、深く関わり親しんでいただける施設です。世界のお茶のシーン展示や、シーズンにはお茶摘み体験などもできます。

精華エリア MAP 寄り道スポット



1 春日神社(菱田)

あざやかな朱色の鳥居が見える春日神社は、さまざまな謎を秘めた本殿で南北朝時代から室町時代への過渡期の様式をとどめており、国の重要文化財に指定されています。



2 祝園神社

延喜式内社。社伝によれば、武埴安彦の怨霊によって荒れた当地を鎮めるため、奈良時代に創建したといわれています。1月に行われる音なしの奇祭「いごもり祭り」は、京都府の無形民俗文化財の指定を受けています。



3 華やぎ観光農園

いちごや枝豆の味覚狩りの直売を行う観光農園です。高設栽培で育てられた「章姫」を中心に大粒のいちごが鈴なりに。通路が広く、ベビーカーや車いすの方も気軽に楽しめる農園です。



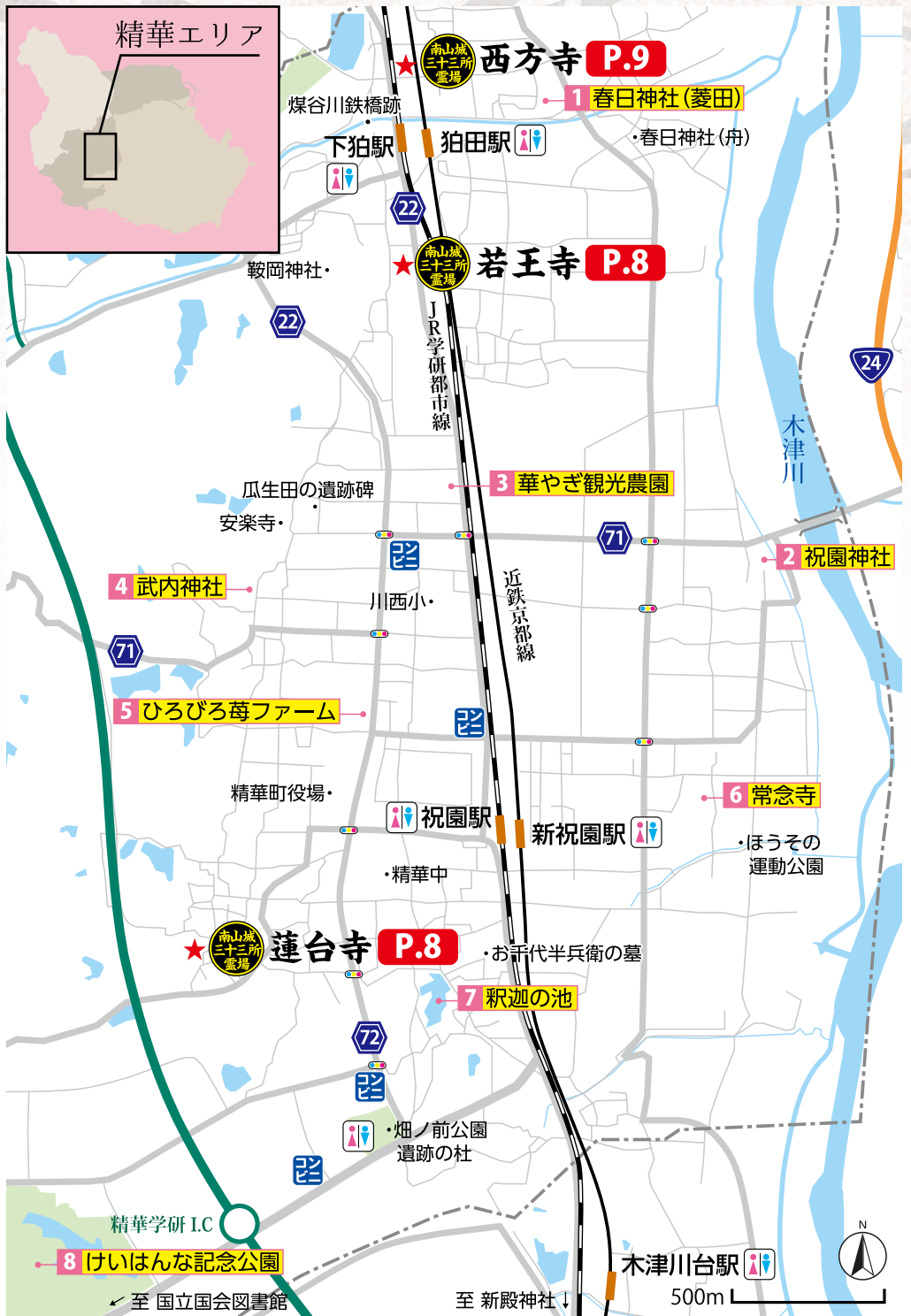
4 武内神社

文保元年(1317)建立と伝承。長寿の御利益があると言われ、秋祭りでは御神楽やちびっこ相撲が行われ賑わいを見せます。平成16年(2004)の調査で建築当初の壁画が復元された本殿は、京都府登録文化財です。



5 ひろびろ苺ファーム

平成29年(2017)にオープンしたいちご狩り園です。当日、最も生育状況のよいハウスに案内してくれます。大ぶりでみずみずしいいちごは摘み取ったらその場で頬張ってOKです。練乳販売、トッピングの持ち込みも可能です。



6 常念寺

府内で数少ない融通念佛宗の寺で、創建は不明です。度々戦火に遭い転々しましたが、寛正2年(1461)に中興されました。境内に建つ薬師堂には、国の重要文化財の菩薩形立像が安置されています。



7 釈迦の池

土と炎の詩人とも呼ばれ、様々な分野で優れた作品を残した陶芸家・民芸運動家の河井寛次郎は、植田地区や釈迦の池を「完璧なまでに美しい村」「こんな美しい池」と褒めたたえ、こよなく愛しました。



8 けいはんな記念公園

もともこの土地にあった溜池や周辺の里山林を取り入れた公園で「自然との共生」をテーマに設置されました。園内の回遊式日本庭園では、約500個の巨石を用いた石組景観や庭園を一望できる観月橋などが楽しめます。

京田辺エリア MAP 寄り道スポット



1 飯岡古墳群

蓮華寺跡や、阿弥陀寺のある飯岡には、京田辺市最大の前方後円墳を含む古墳群があります。



2 田辺天神山遺跡

普賢寺谷入口の北側、標高80メートルの丘陵地に南北90m、弥生時代後期の集落跡が残されています。南山城地域における高地性集落の代表例として注目を集めています。



3 酒屋神社

創建年月など不詳で、かつて神功皇后が三韓遠征の際、帰国後その霊験に感謝して建てられたといわれています。又、酒造りを伝え、祖神を祭ったものともいわれています。



4 山崎神社

山崎古墳群のうち、継体天皇第8皇子・菟皇子の墓といわれる2号墳の上にあります。神社境内には巨石が残り、明治20年(1887)に発見された横穴式石室の玄室天井石とされています。



5 近衛基通公御廟

普賢寺関白ともいわれた近衛基通は、観音寺大檀越(だいだんおつ)として伽藍の復興に貢献しました。普賢寺に移り住み、74歳でこの地で亡くなりました。



6 普賢寺ふれあいの駅

周辺農家から届く新鮮な野菜、果物、花、お茶や漬物・味噌などの加工品の他、手づくりのお弁当やパン、お団子などを販売しています。サイクリストの休憩所としても重宝されています。



7 佐牙神社

酒造りの神社といわれ、2社からなる左右両殿同形式の本殿は、重要文化財です。ともに一間社春日造り檜皮葺です。



8 白山神社

室町時代の神社建築物で、重要文化財です。毎月第1日曜日には朔日講の神楽が行われていたことでも有名です。

井手エリア MAP 寄り道スポット



たまつ おかしんじや
1 玉津岡神社

本殿は貞享4年(1687)再建の春日造です。境内には橘神社があり橘諸兄の末えいの橘正成をまつています。隣接する地藏禅院には府の天然記念物・名木10選に選ばれているしだれ桜があります。



おのの こまち はか
2 小野小町の墓

小野小町は、出羽の郡司の娘で、淳和天皇・仁明天皇に仕えました。晩年井手寺に住み別当の妻で、約891年頃に69歳で亡くなっています。(冷泉家記より)



いでちやう つばきざか
3 井手町まちづくりセンター 椿坂

井手町の交流拠点となっている通称「椿坂」は、縁側や囲炉裏があり、ゆっくり過ごせる空間です。山背古道ハイキングの休憩処として多くの人が行き交い、どこか懐かしい時間が流れています。



いで であらと
4 井手寺跡

橘一族のお寺として、諸兄公が建立した井手寺跡です。令和3年の発掘調査で五重塔跡が見つかり話題になっています。



かはづつか ひ
5 蛙塚の碑

玉川の蛙を詠んだ和歌は83首を数えます。井手の蛙は夜に美しい声で鳴いたという、石碑や説明文があります。



たまがわ
6 玉川

日本六玉川の一つ。約500本の桜並木が花のトンネルを作り、桜の後には奈良時代の宰相橘諸兄公が植えたと言われる山吹の花が見頃を迎えます。堤防には、歌の道として天平・平安時代の歌碑が並んでいます。



ろっかくい ど
7 六角井戸

天平12年(740)聖武天皇が行幸でお泊りになったとされる玉の井頓宮の中にあつたとされる六角形の石積の井戸です。



ありおうざん しふくじ
8 有王山 地藏福寺

橘諸兄公ゆかりの寺院で、本尊には諸兄公の念持仏とされる地藏菩薩と諸兄公のお位牌が祀られています。

山城エリア MAP 寄り道スポット



1 不動川公園

不動川の清流と緑の竹林に囲まれた公園です。広大な園内には、多目的広場(野球、サッカー等)、テニスコート(2面)、エントランス広場などが設置されています。



2 涌出宮(和伎座天乃岐売神社)

居籠祭(いごもりまつり)は昭和58年(1983)に京都府の無形民俗文化財の第一号で指定され、後昭和61年(1986)に涌出宮の他の宮座行事とともに「涌出宮の宮座行事」として国の重要無形民俗文化財に指定されています。



3 天神社十三重石塔

境内にある十三重石塔は、重要文化財に指定されています。台石に建治3年(1277)10月3日の刻銘があり、屋根の一部に欠損した部分があるほかは造立当初の姿をよく残しています。



4 椿井大塚山古墳

昭和28年(1953)に邪馬台国女王卑弥呼の鏡といわれる「三角縁神獣鏡」など三十面以上の銅鏡や多くの副葬品が発見されました。古墳時代初頭(三世紀後半)に位置づけられる日本を代表する前方後円墳で、平成12年(2000)国史跡に指定されました。



5 松尾神社

創建は大宝元年(701)といわれています。月読尊(つくよみのみこと)を祀った本殿は、文化五年(1808)に奈良春日大社若宮本殿を移築したもので重要文化財に指定されています。拝殿・表門・境内社御霊神社本殿は京都府登録文化財です。



6 府立山城郷土資料館

恭仁宮跡(国史跡、山城国分寺跡)、高麗寺跡、椿井大塚山古墳などの出土品をはじめ、数多く残る南山城の文化財を中心に考古、歴史、民俗、美術工芸の各分野で調査研究し、その成果を体系的に展示、公開している資料館です。



7 高麗寺跡

飛鳥時代から鎌倉時代まで存続し、高句麗(朝鮮半島)からの渡来氏族粕氏の氏寺という説もあります。府内最古の寺院跡の一つです。国史跡に指定されています。

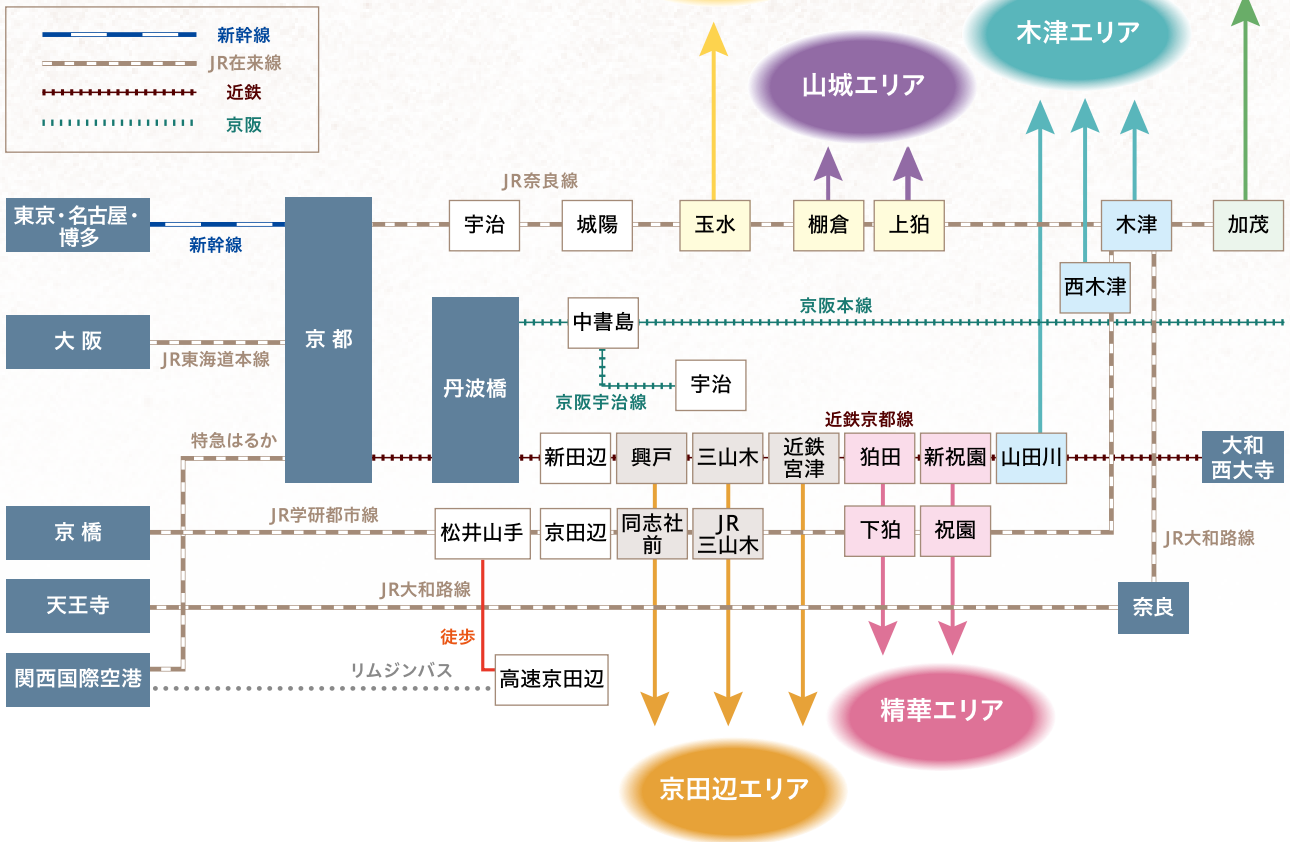


8 上粕茶問屋街

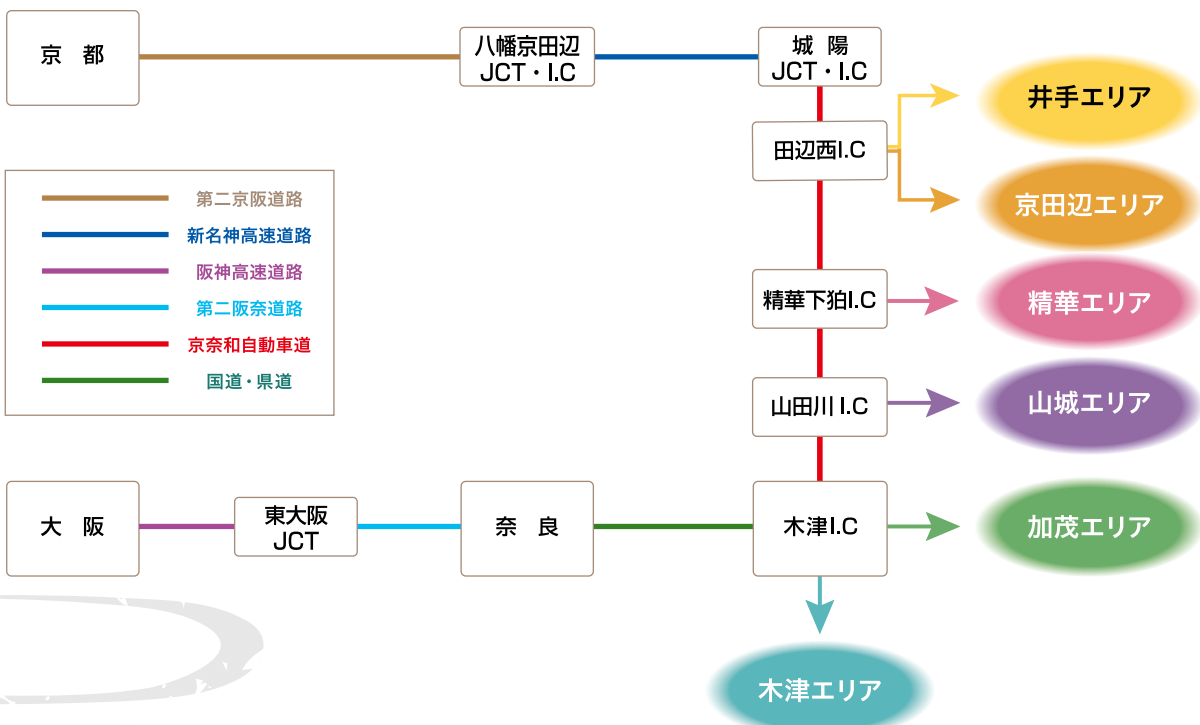
山城茶業之碑が建つ上粕(かみこま)地域の一角には、今も約30軒の茶問屋が軒を連ねます。茶問屋が並ぶ昔ながらの町の佇まいを楽しみながら、そぞろ歩きしてみたいはいかがでしょうか。

南山城への交通アクセス

鉄道をご利用の場合

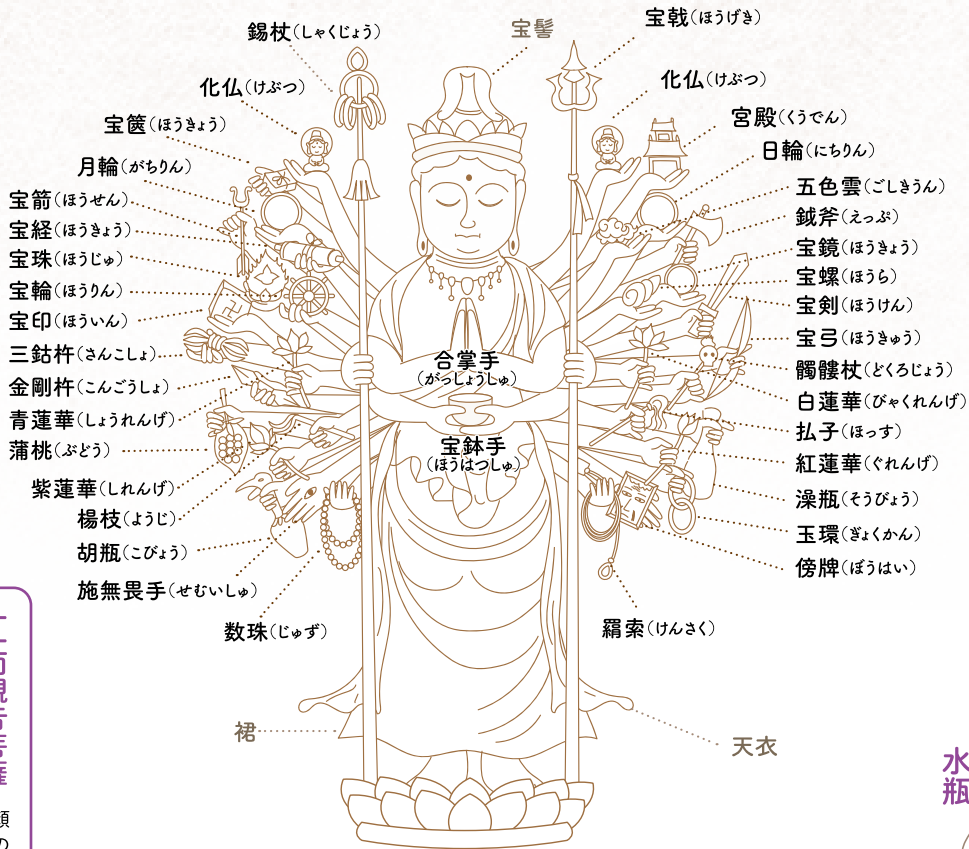


お車をご利用の場合



観音様のいろいろ

観音菩薩は三十三の姿に変え、人々を心の悩みや苦しみから救うという教えがあります
 南山城三十三所には、聖観音、十一面観音、不空羅索観音、千手観音、馬頭観音の
 観音菩薩がおられます。



千手観音のファッション
 & 主な持ち物



十二面観音菩薩

お顔の上にたくさんのお顔があり、これは360度のあらゆる方向を見守り、人々のどんな苦難も見逃さないという意味です。

豆知識用語いろいろ

- 【持物】**(じもつ) 仏像が手に持っている物。その諸尊の性格・働きを示す標幟(ひょうし)で、観世音菩薩の水瓶など。
- 【水瓶】**(すいびょう) 中にはなんでも願いをかなえてくれる「功德水」(くどくすい)という使ってもなくならないありがたい水が入っているといわれています。
- 【巡錫】**(じゆんしゃく) 錫杖(しゃくじょう)をたずさえて巡行する意。僧が各地をめぐる歩いて教えをひろめること。
- 【錫杖】**(しゃくじょう) 悪いものを退散させる杖のこと。上部についた輪を鳴らしながら歩きます。錫杖は常に浄手(右手)に持ち不浄手(左手)に持つことを禁止されています。
- 【縁起】**(えんぎ) 寺社の創建の由来・功德などについての伝承や、またそれを書いた書物・絵。
- 【什物】**(じゅうもつ) 寺院所有の器物、代々伝わる宝物。秘蔵の宝・什宝。
- 【七堂伽藍】**(しちどうがらん) お堂などの諸設備がすべて揃っていることを表します。一般的には、山門、本堂、講堂、庫裏、食堂、浴室、東司、塔、などを指します。
- 【詠歌】**(えいか) 巡礼や浄土宗の信者などが仏の徳などをたたえて唱える歌。短歌や和讃(わさん)に節をつけたもので、一般に鈴や鉦(かね)に合わせ詠吟される。巡礼歌(じゆんれい)うた。
- 【満願】**(まんがん) 霊場で、すべての札所を廻ることを満願もしくは結願といい、すべてを廻りきると満願成就、結願成就という。
- 【散華】**(さんげ) 仏を讃(た)え供養(くよう)するために花を散布すること。
- 【梵鐘】**(ぼんしやう) 寺院で鐘楼につり下げ、撞木(しゆもく)でつき鳴らす鐘。音が大きいことから鯨鐘(げいしやう)・洪鐘などともいう。
- 【廃仏毀釈】**(はいぶつきしゃく) 仏教を排斥し、寺などを壊すこと。明治維新の神仏分離によって起こった仏教破壊運動。
- 【勅願】**(ちよくがん) 天子の命令による祈願。天皇の祈願また、それに基づいて建立された寺社。



暴悪大笑面

十一面観音の真後ろのお顔は「暴悪大笑面」。煩惱だらけの人間を怒りを通り越して笑う様子を表現しています。



合掌印

仏教では印相のひとつです。『大日経』という仏教の経典では、合掌は12種類あるといわれます。



ボランティアガイドと 歩くのもおすすめ

各市町のボランティアガイドクラブや観光協会では、個人・団体のボランティアガイドによる観光案内の申込受付を行っています。南山城三十三所観音巡礼に関する伝承や地域の魅力をより詳しく知ることが出来るボランティアガイドによる観光案内を希望される方は、下記に掲載している各団体へお問合せください。

※日程によってはお受けできない場合があります。またガイド料金は各団体により異なります。



歩いて知ろう！「お茶の京都」

美しい茶畑が広がる京都府南部・山城地域。かつて南山城三十三所観音巡礼が行われたこの地域は、約800年にわたり、日本のお茶のトップブランド「宇治茶」を生み出してきました。

日本のお茶の歴史やお茶文化をより身近に感じていただきたい。そんな思いで、この地域を「お茶の京都」と名付け、現地でのイベントや交流などの情報をWEBサイトで発信しています。

「お茶の京都」 <https://ochanokyoto.jp>



お茶の京都



ボランティアガイドクラブ・観光協会

- | | | |
|--------|---|--|
| [京田辺市] | 京田辺市観光ボランティアガイド協会 (一般社団法人 京田辺市観光協会内) | TEL:0774-68-2801 |
| [木津川市] | NPO法人ふるさと案内・かも 山城町ふるさと案内人の会 木津川市歴史学習会 | TEL:0774-76-3989 TEL:0774-39-8191 (木津川市観光協会) TEL:0774-39-8191 (木津川市観光協会) |
| [井手町] | 井手町ふるさとガイドボランティアの会 (井手町教育委員会 社会教育課内) | TEL:0774-82-5700 |
| [精華町] | NPO法人精華町ふるさと案内人の会 | TEL:090-8877-4991 |

主な協力先 (順不同・敬称略)

京田辺市観光ボランティアガイド協会／京田辺市観光協会／京田辺市産業振興課／京田辺市文化・スポーツ振興課／NPO法人ふるさと案内・かも／山城町ふるさと案内人の会／木津川市歴史学習会／木津川市観光協会／木津川市観光商工課／木津川市教育委員会／井手町ふるさとガイドボランティアの会／井手町産業環境課／井手町教育委員会／NPO法人精華町ふるさと案内人の会／精華町産業振興課／精華町教育委員会／京都府立山城郷土資料館／山城町・古文書サークル如月会／京都南山城古寺の会／株式会社飛鳥園

主な参考資料

山城町・古文書サークル如月会『江戸時代の南山城三十三所を訪ねて』(1996年)

その他の参考資料

精華町『精華町の寺社と美術』(1986年)／京田辺市教育委員会『京田辺市の仏像』(2016年)／精華町文化財愛護会『精華町文化財宝典』(2018年)／一般社団法人木津川市観光協会『美仏の宝庫』(2020年)

編集・発行

お茶の京都 DMO (一般社団法人 京都山城地域振興社)

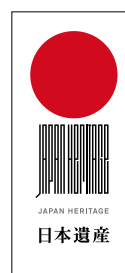
京都府宇治市宇治乙方 7-13 京阪宇治ビル 1F
TEL:0774-25-3239 MAIL:dmo@ochanokyoto.jp
「お茶の京都」で検索 <https://ochanokyoto.jp/>

編集協力：海住山寺住職 佐脇貞憲

●本記載内容は、山城町・古文書サークル如月会発行『江戸時代の南山城三十三所を訪ねて』をベースに、2022年3月時点で追加取材・調査したものです。内容が変更となる場合があります。●新型コロナウイルス等の影響により、掲載内容が変更になる場合があります。



▲本書の内容はQRコードよりホームページからでもご覧いただけます。



※QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です